

サンダル履きまま旅

12

◇ 過ぎしやすいマレーシア ◇

寺井融

Terai Toru

「ロングステイしたい国」の1位
ガーデンシティと呼ばれる首都

ロングステイ財団が毎年行っている「ロングステイしたい国」の一位は、近年、いつもマレーシアである。「安・近・短」で、魅力的な国だから、選ばれるのであろう。

大きく分けて、東マレーシアと呼ばれるボルネオ島のサバ、サラワクの二州、それに半島マレーシアと称されるマレー半島の十一州、計十三州で構成されている。

まず首都クアラルンプールを訪れたらよい。イギリスの植民地であっただけに、緑が豊かでガーデンシティと呼ばれている。

王宮前では衛兵の交代がある。国王は九つの州の士候（スルタン）による互選で、任期は五年。ちなみに、スルタンとは「イスラムの守護者である」と同時に、自分の支配する地域の国王であった」（萩原宣之著『マレーシア政治論』弘文堂）方々である。

日帰りで楽しめるマラッカ
海峡はタンカーの銀座通り

クアラルンプールから、日帰り日程でも楽しめるのは、マラッカである。新しくなった中央駅から鉄道で行くのがよい。マレーシア鉄道（KLM）の幅は一千メートル、日本は一千六十七メートルであるから少し狭く、時速八十五キロぐらい。しかし、田園風景



王宮での衛兵交代

をめでながらの乗り心地は、決して悪くない。旅行写真家の桜井寛氏によれば、シンガポールの駅は、KLMのものだそう。シンガポールの

ル独立前のマレーシアの権益が、いまでも守られているのである。

タンピンで降り、車でマラッカに向かう。ランプータン畑が続き、赤茶色のピンポン玉のような実が、そこここになっっている。

「いやあ、壯観ですなあ」

旅が一緒の年下の友は、喜んだ。

ランプータンは、ここマレーシアが原産である。皮をむけばやわらかい白玉のような実が出てくる。楊貴妃が愛した中国のレイシ（広東語ではライチ）と似ている。香り高く、みずみずしい果物である。マラッカには結局、二時間半かかった。高速でくれば一時間半ですむという。

早速、タンカーの銀座通りと呼ばれるマラッカ海峡を見に行った。あいにく、通る大型船は見かけない。海岸そばの浅いあたりで、漁師さんが胸

のあたりまで海につきかり、網でさらう小エビ漁を
している。とれたてを、すぐ隣の陸の屋台で売っ
ていた。売れ残りは、「漁醤」の原料に使うという。
マラッカのダウンタウンには、仏教、イスラム
教、キリスト教、ヒンズー教の寺院や教会が連な
る通りもある。ポルトガル、オランダ、イギリス
と、数世紀にわたって外国に支配されてきた国な
のである。

もともとマレーシアはマレー系66%、華人系
25%、インド系8%らによる多民族国家で、マレー
系を優遇する「プミプトラ政策」に対し、華人や
インド系の反発は強い。でも、経済が発展を続け
てきたので、これまでのところ収まっている。

サンチェゴ砦での雄渾の夕日 掘り出し物に出会う？夜店

マラッカといえば、夕陽である。夕刻、小高い
丘にあるサンチェゴの砦に、駆けつけた。丘に登
ると、観光客のほか、地元の人たちも集まってい
た。黄金色の太陽がゆったりと落ちていく。ただ
ただ見とれるのみ。雄渾の一語だった。

夕食は、中華とマレー料理を融合させた、地元
のニョニヤ料理に挑戦してみたらい。揚げ魚の
チリソースやニョニヤ風チキンカレーが食べやす
い。ほかにポルトガル人の末裔が住む地区で食べ
た、海老の塩焼きや牡蠣のニンニク風味の炒め物
も捨てがたい。

お腹がいっぱいになってきたら、ジョンカー・



ストリートの夜店を行くとよい。いろいろな食べ
物屋、雑貨屋、土産物屋が軒を連ねている。骨董
品店で、掘り出し物が見つかるかもしれない。友
人は、金メッキの電話器を求めた。ダイヤル式で
ある。

「実用が可能なんですよ。アンティークで、いい
でしょ」

無邪気に喜んでいる。

当方は、木彫りの馬の握りの杖を買った。「も
うすぐ、これ、使う歳になるからね。転ばぬ先の
杖だな」

これまた、実用品であることを強調した。

転ばぬ先といえば、老後、暮らすのに最適と言
われるペナン島に行った。日本人のロングステイ
ヤーが多いのである。

遊び場所や見所の多いペナン 生活費は月10〜20数万円で

マラッカ市内

マラッカ海峡の北のはずれにあるペナ
ンは、総面積は二百八十平方キロメートル。日本
でいえば、沖縄県の西表島ぐらい（州の
人口は約百三十万人）。美しいビーチや
ゴルフ場、そして寺院に植民地風の建物
と、遊び場所や見所は多い。

海沿いのガーニドライブを散歩する。

海風が心地よい。海鮮レストランや海鮮
鍋屋もある。鍋を食べ終え、ブラブラ
散歩した。クレープ専門店があつたの
で、入ってみる。大きな皿に、二枚のクレープと
二個のアイスクリーム。友と「おいしいな」「ウ
ン、おいしいね」などと言いつつ、「お勘定を」
と言おうとしたら、もう一皿運ばれてきた。二枚
で一人前だったのである。値段はお手頃。量は日
本人にはきつかった。

地元滞在する日本人のKさんに、お宅を見さ
せてもらった。ペランダから、海が眼下に広がる
マンション。その八階の三LDKである。「トイ
レが二つに、シャワールームが一つです。ほかに、
マンションには、ジャグジーやプールも併設され
ていますよ」と語る。テレビ、冷蔵庫、レンジ、
炊飯器といった家電や、ソファやベッドなどの家
具、それに食器が備えつけられていて、賃貸料が
月に約四万八千円と言っていた。



台所用品付きの賃貸アパート（ペナン）

ペナンでの生活費は、住む場所や食費のかけかたで大きく違う。一般的には、約十万円から二十数万円といったところか。

Kさんによれば「ここは、町の人口が七十万人居ます。都市生活とリゾート暮らしの両方が楽しめるんですよ。平均気温が年間を通じて二十七、八度。過ごしやすいですね」とのこと。

お奨めはホテルアパルトメント

高原リゾートに自然豊かな島

まず手始めには、ホテルアパルトメントの利用

をおすすめする。レストランやプールなど、ホテルの機能が全面的に使え、部屋にはミニキッチンがあつて、食器もそろっている。コインランドリーもあり、ベッドメイキングも頼める。それでいて、一般のホテルより安いのである。NHK衛星放送も見ることができて、満足であつた。

マレーシアには、軽井沢のような高原のリゾートのキャメロンハイランドや、



スーパーマーケットの果物売場（ペナン）

ランカウエイほかのリゾート・アイランド、それに自然派が垂涎のボルネオ島がある。治安、物価、医療などがわりとよく、言葉（英語）も通じやすいと、なんでも「わりと」の注釈つきだが、整っているのである。

クアラルンプールには、ツインタワーのほか、大型ショッピングセンターが多々ある。買い物好きには、こたえられないだろう。

かつて怪傑ハリマオや陸軍の銀輪部隊が活躍した地である、といつても、分らないかもしれないが、ぜひ足を運んでほしい。

■てらいとおる 昭和22年北海道生まれ。46年、中大法卒。雑誌編集者、新聞記者を経て現在、尚美学園大学非常勤講師、ロングステイ財団広報委員、日本旅行作家協会会員。『サンダル履き週末旅行』（竹内書店新社）をはじめとする旅行記のほか、エッセイ『裏方物語』（時評社）がある。



キャメロンハイランドの賃貸アパート